

月刊しばうら

2022年 2月号

牛肉営業部

<1月の相場動向>

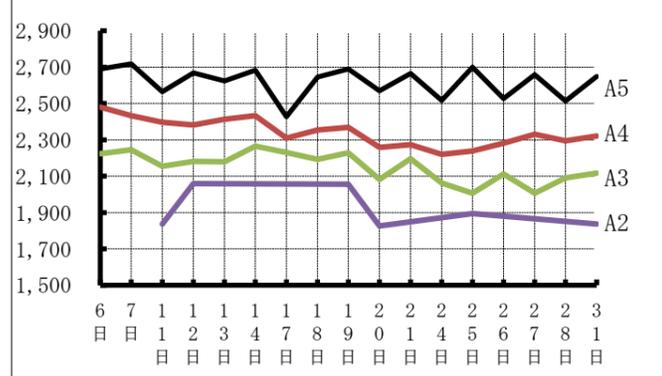
毎年1月は食肉需要最盛期後の消費疲労により、相場は全体的に下落傾向になるが、今年も例年通り下落した。また新型コロナウイルスの感染拡大により、令和4年1月9日に広島・山口・沖縄で発出されたまん延防止等重点措置は、東京をはじめとする13都県でも1月21日から発出され、さらには1月27日から新たに18道府県でも発出され、最終的に全国34都道府県にまで拡大した。

飲食店の営業時間や、酒類提供の時間制限による外食需要不振、食品価格や原油価格の高騰による消費マインドの低迷もあり、食肉需要が著しく減退したことで、乳牛去勢を除いて前年より下げとなった。

和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,639円	-54円	98.0%	-227円	92.1%
A4	2,359円	-88円	96.4%	-242円	90.7%
A3	2,151円	-143円	93.8%	-224円	90.6%
A2	1,936円	-84円	95.8%	-105円	94.9%

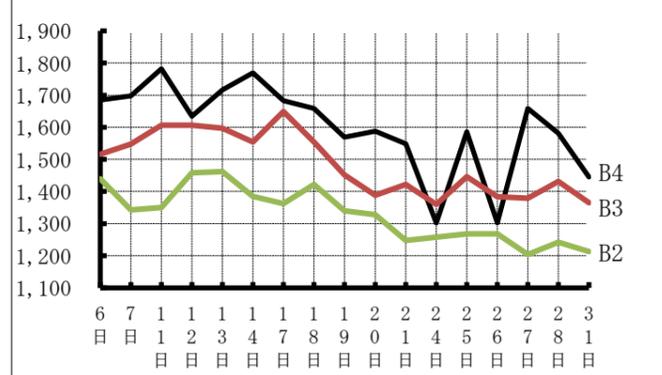
和牛去勢 日別相場表（1月）



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,624円	-87円	94.9%	-102円	94.1%
B3	1,478円	-104円	93.4%	-103円	93.5%
B2	1,329円	-89円	93.7%	-17円	98.6%

交雑去勢 日別相場表（1月）



乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	上場なし	—	—	—	—
B2	1,013円	+74円	107.9%	-100円	91.0%

<2月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、12月の輸入量は前年同月比7.2%減の4万5,711tで、うちチルドは12.0%減の2万811t、フローゼンは前年同月比2.8%減の2万4,900tとなった。中国の買い付けが引き続き強く、新型コロナウイルスの感染拡大による現地工場の稼働低下や、入船遅れにより減少となった。

農畜産業振興機構によると1月は0.6%増の4万1,500t、2月は9.8%増の3万8,500tで予測している。

輸入牛肉通関量		12月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,072	10,084	90.0%
	米国	9,569	11,790	81.2%
	その他	2,200	1,773	124.1%
	合計	20,811	23,647	88.0%
フローゼン	豪州	10,255	12,291	83.4%
	米国	7,442	8,503	87.5%
	その他	7,203	4,823	149.3%
	合計	24,900	25,617	97.2%

出典：食肉速報 単位：t

<2月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による2月の出荷予測頭数は、全体で前年比101.3%の7万8,300頭で、品種別にみると和牛は3.5%増の3万4,700頭、交雑種は8.7%増の1万8,600頭、乳用種は6.7%減の2万3,600頭と予測している。

東京食肉市場の2月のと畜頭数は6,000頭を予定しています。

<2月の牛枝肉相場見通し>

新型コロナウイルスは感染第6波をむかえ収束が未だ見えない状況であり、さらに景気の先行き不安や食品等の値上げもあり、牛肉の需要を取り巻く環境は厳しい状況が続いている。また出荷頭数も前年より多いこともあり、価格が上昇する気配は薄い。

相場は和牛については冷凍保管事業や輸出需要などによる下支えされた価格での展開、交雑種や乳用種については輸入牛肉の価格が高いこともあり、一定の価格が維持されるといった展開の継続を見込んでいる。

2月 牛枝肉価格予測

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,450~2,800	B4	1,550~1,650
A4	2,350~2,450	B3	1,350~1,450
A3	2,150~2,250	B2	1,200~1,300
A2	2,000~2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,050~1,100		

豚肉営業部

12月の全国と畜頭数は、前年同月比0.6%減の151万256頭。また、12月の豚肉通関数量は7万4,543t（前年同月比4.2%増）と前年を上回った。前月比では5.1%の減少。内訳はチルドが3万629t（16.9%減）、フローゼンは4万3,913t（26.7%増）となった。

2019-2020年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
12	82,555	71,474	20,414	167,897	81,364	79,155
1	78,800	66,620	22,433	160,131	76,657	74,386
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
8	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
9	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
比	100%	104%	112%	87%	99%	106%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

12月豚肉通関実績						
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比	
アメリカ	16,484	93.1%	デンマーク	6,125	92.3%	
カナダ	12,050	66.8%	スペイン	12,950	205.1%	
メキシコ	2,093	186.4%	メキシコ	8,482	118.1%	
			アメリカ	2,722	77.9%	
			カナダ	2,562	85.5%	
合計	30,629	83.1%		43,913	126.7%	

単位：t

<1月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
6日	76,200	570	533	1,100
7日	77,300	532	510	1,050
11日	77,700	507	483	819
12日	76,000	485	448	1,194
13日	72,700	495	426	1,081
14日	71,400	496	423	1,145
平均	75,217/日			1,065/日

年明けの初せりとなった6日は正月休み明けの手当や、輸入物の通関遅れの影響もあって上物相場570円でのスタートとなった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
17日	67,800	497	402	1,066
18日	71,900	489	433	905
19日	70,100	511	424	700
20日	66,500	488	419	682
21日	68,200	501	435	989
平均	68,900/日			868/日

北日本を中心とした寒波の影響などにより、出荷頭数は減少傾向となった。また、正月休みによって出荷が止まっていたことで「重量大」での格落ちが多く、上物率が極端に低い状況が続いた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	68,600	497	453	918
25日	70,600	502	470	883
26日	65,300	510	460	744
27日	65,800	510	478	736
28日	67,100	493	456	1,057
31日	69,000	483	442	982
平均	67,733/日			887/日

全国と畜頭数は徐々に減少傾向となり、相場は500円前後の底堅い展開となった。荷動きが良いわけではないが輸入チルドの供給が不安定なことから、国産へシフトするケースもみられた。

<2月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による2月の肉豚出荷予測では130万9,000頭（前年比97.8%）と予測している。当市場の2月集荷予定頭数は1万7,000頭、1日あたりでは約944頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると2月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万200t（同109.3%）、内訳は冷蔵輸入量が3万2,900t（同104%）、冷凍輸入量は3万7,300t（同114.5%）と予測。

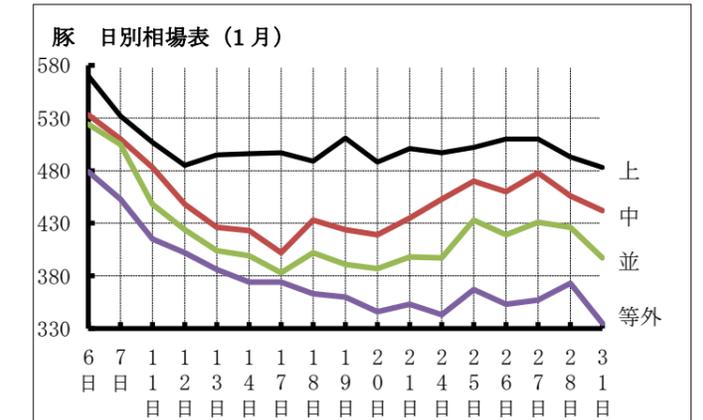
冷蔵品輸入量は、前年の輸入量が新型コロナウイルス感染症の影響による北米からの入船遅れのため少なかったことから、前年同月をやや上回ると予測する。なお、3ヵ月平均は前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は中国の買い付けが弱まったことにより、価格が下がった欧州産の輸入量が増えていることから、かなり大幅に前年同月を上回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

例年2月は需要の低迷期になるが、今年は輸入チルドポークが不安定な状況にあり、国産へシフトする可能性があることに加え、まん延防止等重点措置の適用によって内食需要が量販店を中心としてある程度底堅い需要が見込まれることから、相場は締まった展開となることが予想される。

供給面では今後の気温が例年よりも低いと予想され、寒さによる増体不良によって出荷頭数が減少傾向となる恐れがあり、需要と供給のバランスによって相場へ影響を与える可能性がありそうだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は490円前後、中物平均価格460円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127